全教 枚方教育

全教・枚方教職員組合
枚方市西禁野 1-1-3
No.２０２４
2026. 11. 6.
TEL 848-3300
Fax 848-3052
組合ホームページ

OECD の教育とデジタルの報告書

「AI は魔法ではない。 それは良い教育実践も、悪い教育実践も、等しく増幅させる『加速装置』」

日本では次期学習指導要領に向け、学校教育での AI 活用を大きな柱にしようとしています。「デジタル学習基盤の積極的活用」を前面に押し出して、学校での利活用を推進しようとしています。

「もともと、ICT教育は財界主導で経済産業省が推進してきた」(児美川孝一郎)といわれるように、本来の教育より、国や企業が経済発展のために進めてきた側面があると指摘されています。

「日本には、私たちが犯した過ちを繰り返さないようにと助言したい」(ノルウェー教育相)

一方で、世界ではフィンランド、スウェーデン、オランダ、ノルウェーなどの北欧のデジタル教育先進国をはじめとして、タブレット学習を規制する方向に大きく舵を切っています。

ノルウェー教育大臣は読売新聞インタビューで「我々はデジタル化による学習成果や意欲の低下、いじめや不登校の増加を目の当たりにしている」「日本には、私たちが犯した過ちを繰り返さないように、と助言したい」とまで述べています。

先進国の経済産業省＝OECD でさえ「AI は魔法ではない」

日本の経済産業省のように経済発展を目標にする、先進国中心の OECD が、今年1月に教育における生成 AI 活用に関する報告書(「OECD Digital Education Outlook 2026」)を公表し、デジタル教育、AI 活用の積極性は唱えながらも、その負の側面、活用での留意点を提示せざるを得なくなっています。

このレポート公表に際して、OECD の教育局長は「AI は魔法ではない。 それは良い教育実践も、悪い教育実践も、等しく増幅(アンプリファイ)させる『加速装置』である」とし、その問題点についても指摘しています。

AI 活用で見栄えもよい成果物はできても、「学習」とは言えない
AI 依存で自分で教えられない、授業を組み立てる力が衰退

報告書の中で「AI 活用で『成果物の質は向上する』一方で、『学習成果』に結びつかない」「思考を AI に丸投げすることは、『認知的怠惰』を招く」と警告。

アメリカの実験結果で、AI を使ってエッセイを書いた生徒の80%が「自分が何を書いたか思い出せず、自分で検索し、自力で書いた生徒で思い出せないのはごく少数だった結果を示しています。

トルコの事例では、AI を使って学習したグループは、自力で学習するよりも17%低い結果になっています。

教師についても、AI 依存によって、教えるスキルを喪失したり、授業を組み立てる力が衰退することに警鐘を鳴らしています。

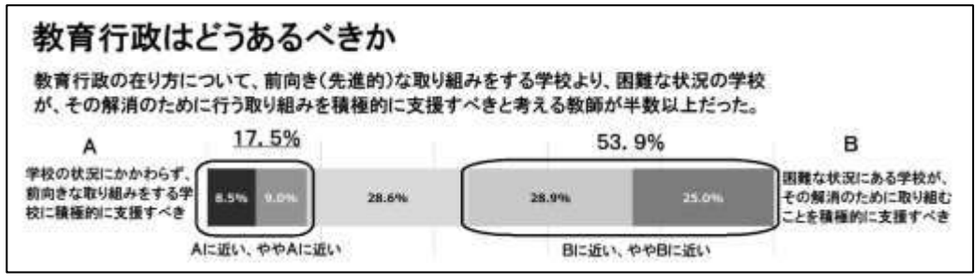
教師には「専門性」と「授業、教育活動の設計者」としての力が求められる

そのうえで、AI などのデジタル技術には「明確な教育的意図」と「ガードレール」が必要になっていると指摘しています。

さらに、教師には「AI の提案をうのみにせず、専門的知見に基づいて判断」することがますます重要になり、教師が授業や教育活動の中で「主導権」を常に持ち、授業・教育活動を設計していく力が求められると強調しています。

現場の先生たちが教育委員会に求めていること(文科省調査)

教育行政は、先進的取り組みより困難に直面する学校支援を



文科省が次期学習指導要領の審議を始めるにあたり、教職員、保護者、子どもたち向けに、大規模なアンケート調査結果を公表しています。(「義務教育に関する意識調査」2024年公表)

その中に、文科省や教育委員会の「教育行政がどうあるべきか」への現場教職員の回答で、「前向きな取り組みをする学校に積極的に支援すべき」と回答したのが17. 5%に対して、「困難な状況の学校に、その解消に取り組むことを積極的に支援すべき」とする回答が53. 9%と圧倒的な差が明らかになっています。

実際には「先進的取り組み」が優先的に現場に求められてきた？

しかし、この間文科省も、教育委員会も、本来教育行政の本来の責務である少人数学級拡充、教員定数の抜本的拡充を行うよりも、ICT 教育、AI,タブレット活用、「個別最適化」「自由震度学習」など「もっと●●教育を」と先進的な教育の研修や研究が求められ、現場での実践が強められてきたといえます。

教員不足でも、学校が困難直面でも、当然のように求められる市教委課題

学級指導、児童生徒指導の困難に直面し、トラブル多発の中で保護者対応に苦慮する事例が多くの職場から聞かれます。そこに追い打ちをかけるように、市費ダブルカウント講師の未配置、教員不足の拡大が重なり、人がいない中でも困難への対応ばかりか、研究指定事業、研究授業、校内研究の公開、イベント事業への参加が当然のように実施を求められます。

具体的な教育活動を現場にゆだね、現場の自由や裁量を拡大して、教員が本来持っている力を発揮できるよう、少人数学級、教員定数拡充などの条件整備にこそ取り組むべきです。

「戦争する国づくり」より、憲法、平和、くらしを守る日本に

11・3大阪総がかり集会(扇町公園)に3500人

憲法公布から80年に当たる11月3日、扇町公園で大阪総がかり集会が開催され、3500人があつまり、高市政権の進める「戦争する国づくり」や大軍拡に反対し、平和憲法を守り発展させ、国民の暮らしや教育を充実させようと、声を上げました。



集会では、新潟国際情報大の佐々木寛さんからのスピーチとともに、立憲民主党、いのちの党、社民党、日本共産党からも連帯のあいさつがあり、「高市政権の暴走にストップをかけ、憲法を生かした政治を実現しよう」と訴えました。

自分たちの状況を言葉にできない、声を上げられない先生たちに刺さる　ドラマ「いろはの恋は時代をかける」

江戸時代の算学好きの町娘と、まじめで努力家なのに子ども保護者との関係に悩む現代の小学校教師が入れかわってしまうという、ありえない設定とストーリー。しかし扱う背景となる学校現場の問題が身につまされるものだけに、気になり、引き込まれるドラマとなっています。

ありえない設定とストーリー、なのにリアルなセリフと展開に引き込まれる

現場の先生として、いかにもアルアルな個性の強い登場人物と、次々起こるトラブルや、管理職、保護者との対応の中で繰り広げられるラブコメドラマ。

授業崩壊、子ども同士の繰り返されるトラブル、先生たちも当然のように進められるブレット授業、こじれて教師を悩ませる保護者対応、メンタルを壊す先生たち…。

深刻な現実だけでなく、「その(ユニークな)教育法は、どこのサイトで見たんですか？」など、現場の状況をあるあるで表現したセリフ。

現場の先生たちには毎回深く刺さるようなドラマの展開やその中でのセリフに、他人事には思えないような思いに引き込まれます。

井上ひさしの弟子＝長田育恵さんが　たくさんの現場の先生に直接話を聞いて作り上げたオリジナル脚本

近年のドラマには珍しく、原作のない、脚本家によるオリジナルドラマといいます。脚本家は朝ドラの「らんまん」などを手がけた長田育恵さんが、プロデューサーと、たくさんの現場の先生に話を聞きながら作ってきたとも語っています。

長田育恵さんは、難解な社会問題を笑いに包んで伝えることを得意とした井上ひさしの弟子とされ、シビアな教育問題をファンタジーと笑いにくるんで描いていて、井上イズムを強く感じさせると評されています。

現場の教職員が、困難の渦中にいるため言葉にも表せないようなケースを、リアルに、しかもコミカルに描くことで、伝わりやすくなっている点が、現場の教職員の共感を呼びます。

(現場でいかにもなセリフがたくさん)

「一ノ瀬生琉」 やることなすこと裏目に出る先生

■「子どもの未来を拓く仕事、そんなのわかってる、デモ学校ってのはそれだけじゃないんだよ。やってもやっても終わらない仕事がのしかかってくる。僕だって本当は、なりたくてなったんだ。子どもの心に残る先生になりたいって。でも、‥」

「真島玲二」 熱心で有能な若い先生

■「はあ、じゃないですよ。どうするつもりなんですか、文科省の GIGA スクール構想、無視するつもりですか。これは国の方針なんです、何百億の予算をかけて ICT 教育を進めてるんですよ。税金を投入するのは、子どもの未来のためなんです。」

■「こっちは指導要綱を守って授業してるんです。あなたもそうしてくれないと、ほかのクラスにも迷惑がかかるんですよ。わかってるんですかっ！」

「阿久津先生」 常に冷静で、周りにも厳格に接する学年主任

■「本質って、それこそタブレットでやればいいですよね。動画でもアプリでも、わかりやすいコンテンツがいっぱいあります。時間は効率的に使わないと。」

自分の状況を言葉にもできず、声も上げられない先生たちの日常を反映

これらのストーリーやせりふが先生たちに刺さるのも、先生たちが、自分状況を言葉にもできず、声も上げられないからこそではないか、そう思わざるを得ません。

「これでいいんだろうか」「子どもの笑顔と成長が見たかったのに、『やらされ仕事』ばかりに」「もっと自分で工夫して、子どもの反応みられる授業をしたい」そんな思いを、封印して、洪水のような課題や決められた仕事をこなさざるを得ない毎日。

そんな現場のリアルな実態こそ変えていくことが何より必要になっています。

「2026 初任の皆さんへのアンケート」にすぐ回答

初任の先生たちの声に、市教委も耳を傾けることを

アンケートの記述　一部の紹介

- ■ 他市は OK なのに、なぜ自転車通勤禁止？
- ■ 研修の出張、部活の試合・引率も公共機関はキツイ
- ■ 運動会前の10月に3回の研修、学校業務考慮されているの？
- ■ 研究授業年3回必要？　■ 研究授業、初任者研修、学びになるけど、回数など考慮してほしい
- ■ 指導案の様式変えられ、書き方に苦戦。
- ■ あの指導案で睡眠時間削らないと不可能、略案でも可能にならないか。
- ■ 部活動は正直したくない、　■ 部活動は役地域移行してほしい
- ■ 休日も部活、試合の審判もあって負担　■ 部活動嫌ではないけど、休日は休みたい
- ■ 自分の経験でない部活で、部員の指導が難しく、部員の視線や態度も悩ましい
- ■ 授業が私語が多く、反応も良くなくて難しい。　■ 1年目から担任は負担が大きい

初任の先生たちにお願いしているアンケート。配布してすぐに回答いただきました。

初任といえどもすぐに担任したり、中学校では部活の顧問で指導や休日の試合など、多くの業務負担とすトレスがかかっているのが実態です。

かつての新任の扱いに比べると、求められる業務の種類がはるかに多くなっていたり、一つ一つの業務も多くの評価や到達目標が求められるなど、目まぐるしい毎日になっていることが、自由記述からも浮かび上がってきます。

まだ、取り組み始めたばかりのアンケートです。さらに多くの新任の皆さんにご協力をお願いします。

教育委員会にもぜひ、これらの新任の皆さんの声に耳を傾けて、取り組みを進めるように、声を上げていきましょう。

合わせて、すでにすべての教職員対象に呼び掛けている、「2026教員不足・働き方・職場状況アンケート」への、ご協力もお願いします。

教員不足・働き方・職場状況アンケート

冬の対市交渉で、組合として、市教委に現場の教職員の声を届けて、職場の勤務条件、学校の教育条件の改善のために、力を尽くしていきます。

初任の皆さんへのアンケート

全教（全日本教職員組合）の枚方教職員組合のニュースです　枚方教組に加入して学校や働き方を変えていきましょう